

道

2022年1月1日
(第77号)



反古山より

「あんたの父さん、知つとるで」。ケアマネで担当になったM男さんから話しかけられた。「酒が好きじゃったのお」。商品の真綿が入った大きい風呂敷包を自転車かスクーターの荷台に積んで行商に出る父の姿を思い出す。生きていればちょうど百歳になる。▼父は倉敷市連島町の綿作りの家で生まれ、物心つく前に真備町服部の農家に養子に出された。その後、子ができないと思われていた養家に子が生まれ、家督は弟が継ぐ。▼九死に一生を得て戦地から戻った父は、母と結婚。農仕事のかたわら、連島の綿を売り歩く。「これは、ただの綿じゃねえ。真綿。上等で軽い」。この収入が一家の暮らしを支える。売れた売れないで酒がつきまとう。なぜあんなに飲んだのか。▼僕が生まれてまもなく自宅ができる。祖父と父等で建てたのだ。本家の井戸から自宅まで百mほど水道管を布設したのも父だった。竹で籠を編む父の写真が残っている。あの頃の小田川には鮎や鰻が遡上しており、川から戻った父の竹籠にそうした魚が入っていた。秋には松茸で籠がいっぱいになった。父は何でもできた。器用だった。「酒さえ飲まなきゃなあ」。よく聞かされた。▼僕は、若い頃、酒に溺れた父を憎んだ。しかし、今、父が傍らで共に生きているように感じたりする。父たちの姿から学ぶものは少くないようにだと、「コロナ禍」の中で考えている。

〒710-1301

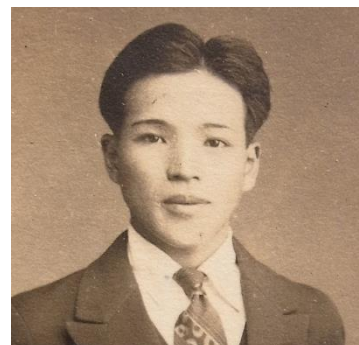
岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



父・林広教 1921-1963